

左京区北部山間地域の将来像 検討に向けたワークショップ

2026年3月7日(土)

まとめ報告会

久多地域

実施日：2025年12月21日（日）

地域住民の声から描く、地域の将来像づくりに向けて

主催：左京北部山間地域自治連絡協議会

共催：左京区役所

運営・分析：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター



本会の目的と地域の基礎情報

◎ 開催目的

左京区の北部山間地域は、豊かな魅力と資源にあふれる一方で、人口減少や高齢化といった課題にも直面しています。

2025年12月に開催したワークショップは、将来に残したい宝物や、理想の暮らし、その実現のために必要なアクションを共に考えていく場として、地域の将来像を住民自らの手で描き出す第一歩として、左京北部山間地域自治連絡協議会が主催しました。

本報告では、皆さまから上がった意見とその分析結果を共有します。

◎ 地域の基礎情報（久多）

🏠 総世帯数：38世帯

👤 総人口：61人（男30人、女31人）



本ワークショップの概要



本ワークショップの概要

実施日：2025年12月21日（日）14：00～16：00

会場：久多いきいきセンター

参加者数：23名（N=23）



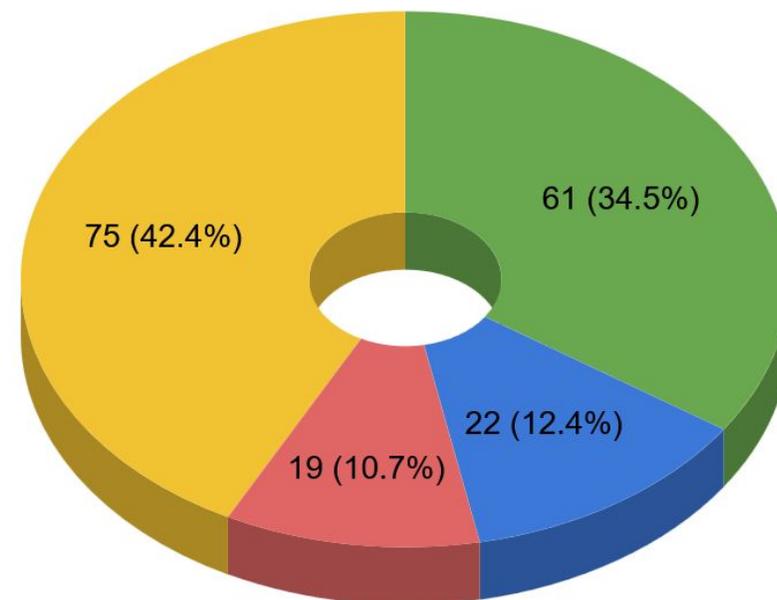
分析の区分

① 積極的に取り組みその効果を期待するものや、活用していきたい資源など

② 経過を観察するもの、今のままであって欲しいものなど

③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの

④ 新たな取組として創造するもの



カテゴリ①：積極的に取り組みその効果を期待するもの、活用していきたい資源など(1)

○稲田の維持と市民農園^{*1}・休耕田の活用に関すること

- ・左京区北部山間地域で最も稲田の耕作面積が広い地域であり、地域の収入にもつながってる。特に稲田を管理している農用地利用組合^{*2}を存続させる必要がある。
- ・市民農園の活発な利用促進。休耕田を都会の人に借りてもらうなど、新たな仕組みを検討する。

○伝統行事の継承と文化・観光資源の活用に関すること

- ・ユネスコに登録されている「花笠踊^{*3}」を地域の重要な資源として継承、活用していきたい。獣害対策にも取り組み、夏の風物詩である「北山友禅菊^{*4}」景観の魅力を高め、さらなる集客に繋げる活動に取り組む。
- ・常住人口は50人を下回っているが、地域の伝統行事である「花笠踊」や、お盆の「川地蔵^{*5}」、宮の町の「松上げ」など、地域で代々継承されている行事の存続に取り組む。

○地域資源を活かした「仕事」と「暮らし」に関すること

- ・醤油づくり、栃の実の加工など、地域住民と移住者が一緒になって生産に取り組んでいる。
- ・「御講（おこう）^{*6}」や「花宿^{*7}」など、家々に集まる地域コミュニティを維持する。

脚注

1：市民農園整備促進法に基づき、市民が農作業を通じた健康的でゆとりのある生活を送るために、京都市が支援し開設された農園のこと。

2：集落などの区域内で農地の効率的利用を目指し、農地所有者らが連携して農用地利用規程に基づき活動する団体のこと。

3：国の重要無形民俗文化財およびユネスコ無形文化遺産の風流踊。

4：左京区久多地域に自生していた野生菊から特に強健で栽培しやすい系統を選抜し、平成9年から栽培されている菊のこと。

5：久多のお盆の行事。夕方、川に六地蔵を川原の小石と砂で作って霊を迎え、翌朝に米・ナス・ダンゴ・シキビ・盆花・菓子・線香を供え、鉦を鳴らして十三仏念仏を唱えお参りする。

6：主に仏教寺院で、宗祖の恩に感謝し報いる法要（報恩講など）や、教えを聴聞する集まりのこと。現在の久多地域では、話し合いの場のような意味で用いられる。

7：花笠作成のために花宿（はなやど）と呼ばれる町内にある家を決めて、町内の人びとがそこに集まって作ること。

カテゴリ①：積極的に取り組みその効果を期待するもの、活用していきたい資源など(2)

○関係人口の創出と移住促進に関すること

- ・現在取り組んでいる体験プログラム「村留学」や、「いなか」の良さを不便さから学ぶ取組として実施している「いなか塾」だけでなく、久多の日常生活を体験してもらう宿泊体験や、松上げ体験等を実施し、関係人口の創出につなげる。葛川（滋賀県）では、農家民宿での宿泊を通して移住につながる事例が見受けられるため、久多でも取組みの検討が必要である。
- ・空き家の改修や現代的な住宅への改修を検討する、自治会を通じた市営住宅設置要望など、移住者向け住宅の確保に取り組む。

○交通アクセスに関すること

- ・路線バスが廃止された状況で、やまびこ号^{*8}は地域住民の移動のために必要な交通手段となっている。地域住民が担い手となる運転手の収入にもつながる。ただし、現在使用している車両の故障などによる稼働停止の危惧がある。

○自然の保全と獣害対策に関すること

- ・倒木が多く常時山林の管理が必要である。漁協では魚を放流しているが、漁獲量は減少傾向にある。農薬の影響からなのか、ドジョウを見かけなくなった。
- ・獣害対策にしっかりと取り組み、久多らしい都市部ではできない取組を持続させる。

脚注

8：京都市左京区久多地域公共交通空白地有償運送「やまびこ号」のこと。久多自治振興会が運営し、普通車1台（トヨタハイエース10人乗）で月2回程度の頻度で隣接する滋賀県大津市のショッピングモール等まで送迎運行する。

カテゴリ②：経過を観察するもの、 今のままであって欲しいものなど (1)

○交通インフラの維持と移動手段の確保に関すること

- ・「やまびこ号」は地域の足として絶対に必要であるが、現利用状況では収支が合わない課題があり、その運用経過を見守る必要がある。
- ・葛川（滋賀県）にはオンデマンドタクシー*⁹、カーシェアリングに取り組み、機能している。久多でも取組導入の検討が必要である。

○自然環境の保全と生態系の管理に関すること

- ・漁協による鮎の放流や、土石の流出を防ぎ、産卵床となる「ねこやなぎ」の植樹等により、魚のいる環境を守り続けることが必要。
- ・久多の住民が田畑を管理することで、下流域の葛川を洪水から守るという防災機能に繋がっている。現状においてこれ以上土地が荒廃しないように保全及び維持する必要がある。

脚注

9：大津市が運営するデマンド型のりあいタクシー「光ルくん号」のこと。バスのように時刻表と停留所があり、事前に電話で予約すれば、地域住民に限らず、だれでも利用できる。運賃は片道300円から800円程度で葛川地域とJR堅田駅を結ぶ。

カテゴリ②：経過を観察するもの、 今のままであって欲しいものなど (2)

○今後を見据えた地域施設の在り方と教育に関すること

- ・京都市公設民営老人福祉施設である久多いきいきセンターについて、現在の利用者層は80代後半が中心となっている。また、これまで地域の女性だけが集まる場所としての利用傾向が強かったため、男性の利用率も向上させる工夫が必要である。
- ・葛川小・中学校の地域を散策する「町探検」などを通じて、子どもたちが地域の魅力に触れ学ぶ機会を継続する。

○地域行事の運営方法の検討に関すること

- ・「里山まつり」はリピーターは多いが、マンネリ化している。人手不足で準備が大変であり何か対策が必要である。暑い夏ではなく、涼しい秋に開催するなど実施日時・方法の変更を検討する必要がある。
- ・地域住民の信仰の対象となっている志古淵神社を守る「神殿（こうどの）制度」は、輪番制で地域住民が担っているが、輪番の間隔が短い。しかし、志古淵神社がある限り続ける必要があると考えている。

カテゴリ③：取り組んでいるものの成果が見られないもの

○移住促進の難しさや住宅不足に関すること

- ・ 長年取り組んでいるが、若い世帯がまとまって移住してくるような期待に対する大きな成果には至っていない。移住希望者に話を伺うと、別地域（滋賀県「堅田」）など、都市部、学校がある地域への移住希望が大半となっている。
- ・ 空き家はあるが、現代の核家族世帯には大き過ぎ、また改修に多額の費用がかかるなど、ニーズに対する課題も多い。

○交通アクセスと行政サービスに関すること

- ・ 昔は左京区が担当であったが、京北事務所に管轄が移って以降、道路補修や水路の管理が十分に行き届かなくなった感がある。農林・土木事務所が京北にあるなど、左京区との横のつながりが見えにくく、行政サービスに不足感がある。
- ・ 路線バスの廃止により、都市部からの団体客やプログラム参加者が見込めなくなっている。

○獣害対策の効果と環境保全に関すること

- ・ 対策を講じても野菜などの耕作物が荒らされ、効果が発揮されず耕作を諦める人が出てきている。
- ・ 草刈りは獣害対策のためにも止められないが、大きな負担となっている。

○地域にある各種団体・役員の負担軽減に関すること

- ・ 人口が減っても団体やその役職の数が変わらず、特定の人が複数を兼任しており負担がかかり過ぎている。
- ・ 子どもがいない地域でも少年補導に関する役職があり、不要な活動形態が見受けられる。

カテゴリ④：新たな取組として創造するもの(1)

○地域資源を生かしたビジネスモデルに関すること

- ・久多ならではの工芸品・加工品を市場化するため、都市部の百貨店などでの物産展出店を検討する。市場化し収入が増えることで意欲向上につながる。
- ・都市部に多くみられる課題（不登校や都会暮らしへの疲弊など）の解消に向けて、受け入れ教育プログラムを地域で構築する。地元地域住民が「先生」として講師になり、日常生活を一緒に送る。
- ・観光客向けに、野菜や加工品を販売する無人販売機を区役所や地域に設置する。
- ・別所でチマキザサを生産しているが、獣害に遭い大変な状況である。久多でも栽培し、チマキザサを商品化する。
- ・都市部では入手困難なアケビ等のツルを使ったカゴ編みや、クリスマス用のリース、スワッグ（壁飾り）などの装飾素材を商品化し販路を広げる。

○若者に関すること

- ・雨の日でも遊べる場所としていきいきセンターの体育館を開放し、地元の子ども、都市部から帰ってきた子どもが遊べ、集まれる場の創造に取り組む。
- ・大学生ボランティアを巻き込んだ行事運営を模索する。
- ・雪合戦や雪のお花見、ドッグランなど、個人的なアイデアを地域の楽しみとして具体的な計画を模索する。
- ・お茶屋や飲み屋のような、行事以外でも気軽に寄り帰ってこられる場所をつくる。

カテゴリ④：新たな取組として創造するもの(2)

○移住者の受け入れに関すること

- ・ 教員住宅の転用や、大きすぎる古民家ではなく、地域材を使った、核家族でも維持しやすい「小さな家」を整備する。
- ・ 移住者が増えている葛川地区（滋賀県）と連携し、移住したい子育て世帯などを紹介し合う。
- ・ 凍結路面や積雪などの不便さ、厳しさを移住の前にあらかじめ体験できる冬のお試し移住体験に取り組む。

○伝統の柔軟な活用と観光に関すること

- ・ 花笠踊は神事として男性しか参加できない。伝統を守りつつ、女性や観光客も参加・体験できる「観光用の花笠踊」を検討する。
- ・ 地域でタッグを組んで、久多の魅力をSNSで発信し、関係人口を増やす。

○自然共生型の新しいライフスタイルに関すること

- ・ 狩猟によるシカ肉などの処理施設の設置を通じ、獣害となる野生生物を地域の資源に変えていく。
- ・ わら細工や地域材を活用した民芸品づくり、体験会を通じた経済循環の創出。自宅の木材を安価に加工できる「コイン製材^{*10}」の導入。

脚注

10：地域で製材機を購入し、地元地域住民であればワンコイン（500円など）で製材機を利用できるようにすること。

傾向と特徴

○文化継承と現代的価値観の乖離に関すること

「花笠踊」などの伝統文化は重要な資源であり、今後も継承し活用したい資源である。一方で「男性しか参加できないのは時代遅れではないか」という意見もあり、伝統を守りつつも、女性や観光客が参加できる仕組みを検討するなど、柔軟な取り組みとなるよう検討し始めている段階にある。

○交通・インフラへの不安に関すること

地域住民の移動手段である自主運行バス「やまびこ号」は「絶対に必要」とされる一方で、収支の赤字や車両の故障リスク、利用者の減少という存続の危機に直面している。また、行政の管轄変更に伴い、道路補修や水路管理が不十分になったと感じるなど、インフラ維持に対する不安がある。

○自治会・組織団体の限界に関すること

人口が減少しても地域内の団体や役職の数は変わっておらず、特定の個人が複数の役職を兼任している「役職の過多」が大きな課題となっている。また神事の維持体制（神殿制度）において当番の間隔が短くなるなど、担い手の負担が限界に達している。

○移住促進における「ミスマッチ」に関すること

地域に空き家は存在するが、現代の核家族世帯には大きすぎたり、改修に多額の費用がかかったりするため、既存住宅と移住希望者のニーズとのミスマッチが起これ移住促進が進まない。若い世帯は、都市部や学校がある近隣地域（滋賀県堅田など）への移住を希望するケースが多く見受けられる。

そのほかの意見

① 積極的に取り組みその効果を期待するものや、活用していきたい資源など

- ・ **自然資源の活用:** 萱（かや）刈りイベントの開催や、薪（まき）を生活に取り入れるスタイルの推進。
- ・ **住環境の再定義:** 古い住宅を修繕しながら住む文化。不便さを楽しむ「豊かな生活方法」の模索。
- ・ **リモートワーク:** 都市部より整っているインターネット環境（光回線）の活用。

② 経過を観察するもの、今のままであって欲しいものなど

- ・ 特になし

③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの

- ・ 移住促進の取組は成果が確認できない。
- ・ 成果は見られないものも多いが、止めてもいいと判断できる取組はない。

④ 新たな取組として創造するもの

- ・ **オープンなコミュニティづくり:** 新しい人を受け入れる体制を作る。今回のようなワークショップ（話し合える場）を継続する。
- ・ **観光と環境のバランス:** 鯖街道の中間地点としての魅力を発信する一方、京都市街地のような観光公害を避け、自然が守られる程度の「適切な不便さ」を維持する。
- ・ **持続可能なビジネスモデルの構築:** 「ボランティアではなく、生活できる給料」を提示できる仕組みづくり。
- ・ **インフラ整備:** 登山道（八丁平）の整備。
- ・ 既存の加工所や農地を活用した特産品（漬物・味噌など）の事業化。
- ・ 連作障害（同一作物の連続栽培による生育不良）などの技術的課題への対策。

出所

- **文化庁**. 久多の花笠踊. [online]. 文化遺産オンライン. [参照日: 2026-03-01]. 入手先: <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/137167>
- **京都市**. 市民農園情報. [online]. 京都市情報館. 2026-01-22更新. [参照日: 2026-03-01]. 入手先: <https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000240294.html>
- **第一園芸株式会社**. 〈京都編〉 第二話 京都最北端の山里に咲く幻の花 「北山友禅菊」. [online]. 花毎（はなごと）：花の旅人. 2018-10-10. [参照日: 2026-03-01]. 入手先: <https://www.hanagoto.daiichi-engei.jp/hanatabi/965.html>
- **大津市**. 葛川・伊香立・仰木・上田上・晴嵐台地域のりあいタクシー『光ルくん号』ご利用ガイド. [online]. 大津市ホームページ. 2026-01-20更新. [参照日: 2026-03-01]. 入手先: <https://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/036/1801/g/kotsu/taxi/40074.html>
- **京都市左京区役所**. 森京都 伝統行事 川地蔵（久多） [online]. 京都市, 2013-03-18 [閲覧日: 2026-03-01]. 入手先: <https://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/page/0000012176.html>
- **京都市左京区役所**. 京都市左京区久多地域公共交通空白地有償運送「やまびこ号」に係る実績報告 [online], [日付不明] [閲覧日: 2026-03-01]. 入手先: <https://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/cmsfiles/contents/0000240/240805/04houkoku.pdf>
- **社会福祉法人 京都市左京区社会福祉協議会**. 【久多学区】福祉有償運送事業の「やまびこ号」に乗車してきました！！ [online]. 京都市, 2023-09-06 [閲覧日: 2026-03-01]. 入手先: <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/news/2023/09/news1540.html>